

町立図書館

町史だより

旧暦三月三日

(サングワチサニチー・サングワチャー)

～浜下り～

暦の上では春を迎え、過ぎやすい季節がやってきました。春の年中行事として有名なものに、旧暦三月三日の行事があげられます。この日はごちそうを持って浜辺へ行つて体を清め、健康を祈願して潮干狩りなどを楽しまます。行事日そのまま行事名となっておりますが、浜へ行くことから一般的に浜下りと呼んでいます。おもに女性、子どもたちの行事となっておりますが、地域によっては男性も浜下りをするそうです。



旧暦3月3日の様子(平成9年4月9日)

町内でも、旧字の伊保の浜や仲伊保、字小那覇などではごちそうを重箱につめて浜へ下り、潮干狩りを楽しみ、各家庭ではフーチバームーチ(よもぎ餅)やターンムニ(田イ毛煮)が仏壇に供えられました。上地区の数ヶ所の字は海岸から遠いため、実際に浜下りはできなかつたようですが、ンムニ(イ毛煮)や海産物を仏壇に供えてこの日を祝っていました。

また、旧字の仲伊保のンスハジ(御衣脱瀬・第二尚氏の始祖・尚円王ゆかりの干瀬)には、戦前まで首里から尚家の一族が礼拝のため訪れていたといえます。

旧暦三月三日の浜下りに関して、「アカマタ伝説」とよばれる伝説が伝えられています。アカマタの子を身ごもった娘を(旧暦)三月三日に浜下りさせる子どもが流れたという内容の話は、浜下りを行う由来として、県内で広く語られています。

浜下りは旧暦三月三日以外にも行われ、たとえば家の中に鳥などが入って来た場合、不吉だということで浜へ行って体を清める習慣があります。字棚原では、「ハマウリモー」と呼ばれる丘の仮小屋に三日間こ

もり、厄をはらったといえます。海から離れた地域ならではの面白い風習といえますね。

「参考文献」

西原町史編纂委員会

『西原町史 第四巻』

西原町史編纂委員会

『西原町史 別巻』

沖縄タイムス社

『沖縄大百科事典』

MINI TOPIC

寄贈いただきました

町立図書館では、昨年九月に行われた「二〇〇五年酉年十二年まるあしび」(字棚原)の映像を収めたDVD(四枚一組)を実行委員会より寄贈いただきました。図書館および町史編集係でも大いに活用していきたいと思えます。



写真上:道じゅねーの様子(2005年9月)

写真下:2005年酉年12年まるあしびDVD

- 【内容】
- No.1 道じゅねー・狂言 編
 - No.2 踊り 編
 - No.3 組踊り「国吉の比屋」編
 - No.4 組踊り「雪払い」編